

みんなが笑えるその日まで

甲南中学校 二年 森木 洋那

「今の子たちは平和だねえ。」

夏のある日、祖母が言った。私が姉と遊んでいたときだった。

「おばあちゃんって戦争体験したことあるの。」と、私は尋ねた。祖母は首を縦に振った。それからクローラーを入れて椅子に腰かけ、話し始めた。

約八十年前、鹿児島はアメリカ軍による八回の空襲を受けた。当時祖母は八歳だった。七人姉の下から二番目で、姉姉たちにおんぶされ、空襲から避難したという。ガンガン、ヒュルヒュルと大きな音がしたと、掘られてある土に隠れたこと、そのときの様子を詳しく話してくれた。

「もう怖くて怖くてね。戦争して得することなんてあるもんね。」戦争がないことがどれだけ大切なことか、祖母の真剣な表情から伝わってきた。

私は、そのとき自分がいたら……と想像しながら祖母の話聞いていた。私が八歳だったら、何も理解しきれずに何も動けないだろう。ただひたすらに泣くだけ。そう考えると戦争を体験した方々は本当に強い。いつも見ている祖母の笑顔の裏に苦労があったんだと思うと、今すぐ抱きしめたくなった。

「戦争がないって本当に本当に幸せなことなんだよ。だから、一日一日を大事に生きるんだよ。」

この言葉は私の胸に深く刺さった。きっと戦争を体験して苦しみを分かっているからこそ、胸を張って言えることなのだろう。

学校で友達と雑談しているとき、家族で食卓を囲んで笑い合っているとき、当たり前のように過ごしていた日常生活が輝いて見えた。何気ない瞬間でも幸せ。そう感じさせてくれたのは祖母のおかげだ。

そして、こんな生活ができていることに初めて感謝の気持ちを持った。この生活が永遠に続くとは限らない。だから一日一日、いや、一秒一秒を大事に生きていきたい。

今、日本は戦争がないが、世界では戦争や紛争が絶えないところがある。それによって、なにも罪がない人々が苦しめられ、つらい思いをしている。学校へ行きたいのに学校が壊され行けなくなった。家族や友達を失ってしまった。今もどこかでそんな人がいるかもしれない。このような悲惨なことは考えたくない。しかし、戦争のない日本だからこそ考えるべきことだと思う。なぜ武力によって争いごとを解決しようとするのだろうか。何人もの大切な命を奪ってまでも戦争をする必要はあるのだろうか。「戦争」という苦しい二文字がなくなりさえすれば、「平和」という幸せな二文字が待っているのに……私は、テレビや新聞などで戦争のことを目にする時、とても胸が締めつけられる。世界で唯一核が落とされた日本の国民として、戦争を体験したことがある祖母の孫として、考えることは、ただひとつ。それは、「全世界の人々が幸せな日々を送れるように」ということだ。

日本もいつ戦争をするかなんて誰にも分からない。もちろん、戦争はしてほしくない。戦争は絶対にするべきことではない。そう願っている人が一人でも増えるには、過去の戦争のことをみんなに知ってもらおうことだと思う。

時代は流れて去って行ってしまうが、今までの悲惨な戦争の記憶は何十年先も、何百年先も、ずっと変わらぬまま語り継がれていつてほしい。いつか世界中の人々の笑い声が空をつないで届いてきてほしい。祖母の話を聞いて改めてそう思った。いつまでも、この青い空が続きますように。